

五十三駅

滑稽膝栗毛道中図会



ごじゅうさんつぎこつけいひざくりげどうちゅうずえ 一猿齋国升 画 綿屋喜兵衛 版 請求記号: Su30 寸法: 50×71 cm

翻刻凡例

- ・各コマの宿場名の上に「一」で江戸からの順番を付した。
- ・破損等のため判読不可能な箇所及び不確かな箇所は、「一」で示した。
- ・清濁及び文字遣いは原本通りとし、改行はできるとき再行した。
- ・異体字及び旧字体は、現行標準字体に改めて表記した。

※本作品には作成された時代背景により、現代では一部不適切と思われる表現が含まれております。あらかじめご了承ください。



ふりだし 神田八丁堀
 女「こりやいもひちさん
 なにかとおせは
 さまでござ
 いまし
 たヨ

ほり ヤ「ときにしうぎは
 すみやしたが右
 のぢさんさんは
 どふたねいも七さん
 よろしくおたのみもうし
 やす

いも七
 「おつと
 ちだがこん
 やはまに
 あはねへあ
 すはとつて
 すぐと
 もつて
 よこす
 から

とちめんや弥次郎兵衛こんれいの所
 「なんでもこんや中に十
 五両の金がなくては
 大きく
 じり
 だか
 弥次さん
 どふしてくれ
 るのだイヨ
 こいつは大へんた

【一】品川

「コウ弥次さんなにもかも
ぶちうつて
こうしてでた
ところは
とふも
いゝじやねへか
ヤ「そうヨ八丁ぼりのいへても
一けんの内だもの夫ア
いせさんくう
から上がたまで
けんぶつ
ぐらへの
ろぎんはたくさん
だはナなんとどう中
は十ぶんに
しやれるつも
りだからいゝかね
サアあるきなせへ

【二】川さき

北「あねさんどぶだ
おれが
たのみを
いてくれるきは
ねへかね
女「こんたはばか
けた人さね
ヲホ、いゝく
ヤ「ふくかしてくんせへ
おめへたちはとけへ
いくのた
おれらと
一しよに
とまるは
とふたナ

【三】かな川

「てめへらはおう
しうのうまれかね
おれも
なからく
あつちから
もんたから
みなよく
しつて
いらアナ
「これやちさんよしなせへおめへ
さつきからあいつらにかつかれて
もちことられていらアナ

【四】ほどがや

「そうしては
いけねエ
ふるしきか
もけて
てか
やふれる
はア
はなせく
「とまりたくてもきさま
らのつらみてはめしか
いらねエ」

【五】泊とつか

「そいつアありかてへ北八
とふた
いろおと
こはかく
へつた
ろう
「コウほんく
いつてはモウ
おやこの
しやれも
やめたヨ
せかれちつと
はなしか
あるから
とつちへ
なと
いてうせろ

【七】平つか

「そうだくたんなに
かついてもらつて
てめへのるかいは
「たんな三百のかを百五十
ならてめへかつかいていくといつたから
まげやせうサア百五十たしてかた
ほうかつき
なさい
ヤ
「又大しくしりだ
こいつはまつひらたく

【六】藤さは

「なにつめたいから今
ぬくめたときに
つけしつみのひか
ついたのてあり
ませうに
やけ「ぬこたア
こさいません
「アつゝあつゝいゝ
こいつはたいかんたユウ
はアさんこのたんこは
とう
したんた
口のなか
ひになる
あつゝく
アつゝく
「こいつは
おかしい
アは
く

【八】大いそ

「そこてしつかりへのてないやうにきはりなせへ
よしかね
「とふた
くつと
もち
あけて
これでも
上らねへの
虎「か」石



【九】泊 小田原

北「ヤア、ふろのそこ
かぬけて大へんく
いたいくく
あついくく
ヤ「こいつはおかしいけたを
はいてふろへはいつたと
見へるは、、、くコア
命にや
べつしやう
なしサ
ていしゆ
「これはく、とんだ
ことするお客
さんたヨ

【十】はこね

ヤ「これはきめう
北「ほうかむりすれはい、男
見へるといふからな、い、みしても
おもひつかす
つもりた
女「ヲやく、アノ
人は、ち
ちう
ふん
としかむ
ほし
りしヨ
女「ヲホ、い、ね
おかし
女「ヲほ、、

【十一】三しま

「それ
しや
モウ
こ、から
江とへ
ねへるしや
「ヤア、く、コリヤ
とふしやうちかへの
中はみないしたサア、
大へんく、コリヤ夕部
一しよにとまつた
十吉めか
こまのはい
にちかへねへ
サア、く、
ていしゆを
よへく

【十二】泊 ぬまづ

「ア、いたいく
とふして
くれる
のた
ア、いた
いた
かねはとられるあたまは
こわされ
おらは
モウ、いた
くらいた
ア、いた
く、いた
このつめきを
はつめきを
やろうめきを
つける
エイさつさ

【十六】ゆ井

「エ、くさいくく
ヤ「コレそんな上だん
してはいけねへ
ア、くさいくく
「ハイたのみますくく

【十五】泊 かん原

「ヤア、くく
さいたいくく
さがす物
をとつた
上つた
たア
ば、
「コラみな
にかいへきて
くがさいとろ
ぼんがきて
どこのおつちたヨ
サア、く、あかり
つげさすせへく

【十四】よし原

「このくわしんはいくらた一ツか三文かそんなら五ツくたから
三五六文はらふそイ、カ
「三文つ、五ツ
ならへていかつ
しやい
「ゑらいめに
あわし
おつた



【十三】はら

ハイどふそ
御こうりよくに
おこ、るもちを
ねかいます
「いやモウつちらもゆふへ
こまのはいにろきんとら
れて一文なしさどふそ
こちらへ
ねかい升



【十七】おきつ
 ヤ「なんだな豆のこかと
 おもつたらコリヤ
 ぬかだエ、ケー、
 むねがわるくて
 いけ
 ねエ
 北「それみねエだんごは
 よしねといつたに
 きかぬからヨ

【二十四】かなや
 「あいぼヨ
 これてかるくて
 いっせ
 いね
 あれを
 みさつせ
 ヤ「いたいく
 こんおつかごに
 のせおつて
 すまねへぞ
 こしげ
 ぬけて
 いたねへ
 いたねへ
 「とんだことだ

【十八】えじり
 「このやらうめこんなもの
 をひとにぶつめて
 てすむかへりやうけん
 ならうめ
 やらうめ
 ヤ「ヤア
 まつひら
 ごめん
 北「サアはやくゆき
 なせへおめへ
 いわねへでも
 いっせ
 むたくちを
 といたから
 あつくなるのサ
 サア
 「この「やろうめ」
 「をれ
 ヤ「こいつは
 へんちき
 たごめん
 さつせい
 御問屋

【十九】泊 ふちう
 北「コウわけへ
 しゆひとつ
 のみな
 せへ
 「ハイ
 「いさ川さん
 どふだね
 「だんなハイごめん
 なさいひとつ
 めし上り
 ませ

【二十二】藤ゑだ
 ざとう
 「どこのやろうか
 めくらとおもつて
 人をたしぬきヤ
 がったかはりだ
 コリヤ
 どんぶり
 こ
 ハ、
 「ゑ
 たさま

【二十】まりこ
 ヤ「このおふくめ
 どふしや
 「こい
 つハ
 おもくろ
 ハ、
 「ぶつなら
 ふつてみやがれ

【二十一】おかべ
 「ヤレコラ
 すべら
 したつら
 きたどく
 だ
 ヤ「コラ
 いたいく
 エ、
 はは
 たは
 アハ、
 御問屋

